

一般演題1-1

右第一趾難治性潰瘍に対して高気圧酸素治療が著効した一症例

長見英治¹⁾ 久我洋史¹⁾ 石井利幸¹⁾ 小倉 健¹⁾
 川内啓太¹⁾ 牧之内 崇²⁾ 浅野達彦²⁾ 石橋 聡²⁾
 李 光浩²⁾ 山内雅人²⁾ 角南滋子³⁾ 石原靖章³⁾
 巖 瑩³⁾ 伊良部真一郎⁴⁾ 森脇龍太郎⁴⁾
 守屋拓朗⁶⁾ 山縣正康⁶⁾ 石川康朗²⁾

- | | |
|----|------------------------------------|
| 1) | 独立行政法人労働者健康福祉機構
千葉労災病院 臨床工学部 |
| 2) | 独立行政法人労働者健康福祉機構
千葉労災病院 循環器科 |
| 3) | 独立行政法人労働者健康福祉機構
千葉労災病院 耳鼻咽喉科 |
| 4) | 独立行政法人労働者健康福祉機構
千葉労災病院 救急・集中治療部 |
| 5) | 独立行政法人労働者健康福祉機構
千葉労災病院 整形外科 |

【はじめに】千葉労災病院(当院)の高気圧酸素療法(HBO)は昭和40年11月から行っており歴史がある。現在新病院を建設中で、新病院においても現有の個人用HBO装置(中村鐵工所:NHC-230)2台を移設する方針である。昨年(平成23年)本会にて当院のHBOの現状を報告したが、HBO実施症例は耳鼻咽喉科依頼の突発性難聴が9割近くであることに変わりはない。一方で、その後、難治性骨髄炎や放射性潰瘍および癌患者に対する放射線治療における増感にもHBOを開始し、各部署からのHBO依頼も増え適応疾患も拡大傾向にある。

【目的】今回、循環器科依頼の足趾の閉塞性動脈硬化症による難治性潰瘍に対してHBOが著効したと思われる例を経験したので報告する。

【症例】60歳代男性。主訴:第一趾難治性潰瘍および痛み。既往歴:高血圧42歳から降圧剤内服を継続、高脂血症、高尿酸血症、糖尿病、肥満。嗜好:喫煙は40歳まで20本/日、飲酒は今年の8月以来禁酒しているが、以前はビール1缶(350)週2、3回。現病歴:平成22年12月、右足間歇性跛行出現(200m歩行で足が痛くなった)、左も1週間後くらいに同症状出現。平成23年1月近隣(市原市内)A病院整形外科受診したが閉塞ないと言われた。同年4月、セ

カンドオピニオンを相談し、千葉市のB病院を紹介され、両下肢の閉塞性動脈硬化症と診断された。同年5月、B病院緊急入院、左足増悪にてカテーテル治療を試みたが、困難な状態のため、東京のC大学病院へ転院、DSAでも閉塞が認められた。同年6月C大学病院にて血栓除去術を施行したが、末梢部は左足の3本中1本のみ開通していると言われ、7月初旬に一旦退院し、リハビリ継続後、300m→2、3km歩行可能になった。ところが同年8月に突然、左足のふくらはぎに疼痛が出現し、C大学病院を受診し、大腿に血栓を認めFontaine4度であった。このため、大腿動脈にステントを2本挿入したが、末梢は詰まっていると言われた。この時、経食道心エコーを実施し、大動脈弓部に5mmの不安定プラーク発見され、これが血栓の原因ではないかと言われた。同年9月下旬に退院し、リハビリは継続。同年11月の始めに左足親指に潰瘍が出現(初めて)、同年12月、左側背部に血管が破裂つような痛み及び衝撃が起こり、5日後に背面全部に内出血が出現。そのままC大学病院に緊急入院し、保存的加療にて、ビタミンK、輸血2U施行し、症状は軽快し1週間で退院し内出血は3週間程度で消失。平成24年1月、再度C大学病院に入院し、HBOを1回×10日の合計10回実施したところ、親指の内側が軽快し退院となった。しかしC大学病院では外来HBOを実施しておらず、患者本人はHBO継続希望され、ご自宅付近である当院を紹介され受診となった。当院では、すでに大腿動脈へのステント留置が実施されているため循環器科によるインターベンションは実施せず、HBOを外来で実施。なおHBO後にプロスタグランジン点滴静注も実施した。HBOは週5回、空気加圧2.5ATA、O2リザーバーマスク10L/minで実施し、当院でのHBO24回目の加圧中に耳痛が出現したため耳鼻咽喉科受診したところ軽度の中耳炎症状があったため25回目以降は治療圧を2.0ATAで実施した。当院でのHBO70回目(C大学病院の10回を合計すると80回の実施)で症状が軽減し、HBOを2週間休止後、再評価の結果、改善しHBO終了となった。

【まとめ】下肢動脈閉塞症によると思われる第一趾の難治性潰瘍に対してHBOが著効し、足趾切断をまぬがれた症例を経験した。今後も、様々な疾患に対して、高気圧酸素療法を積極的に実施することで、患者様の治療に貢献したいと考えている。